



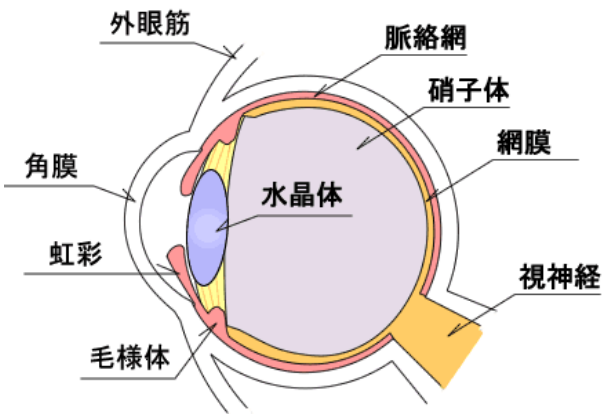
Information 12



今回は“眼”についてのお話♪

犬猫にも人間と同じように眼の病気が多くあります。

<眼の仕組み>



眼の構造はたとえば

“カメラ”

眼の組織1つ1つが重要な役割を果たしています。
人・猫の視野は約180度に対し
犬の視野は約240度!!
物体を映像でとらえるよりも
光や動く物への反応が発達。

まずは、こんな症状がないか **check!!**

- ✓ 目ヤニが多い
- ✓ 眼が充血している
- ✓ 涙の量が多い
- ✓ 顔周りを触られるのを嫌がる
- ✓ 左右の瞳の大きさが同じか
- ✓ 黒目が白く濁っている
- ✓ まつげの異常
- ✓ 眼をかゆがる
- ✓ しょぼしょぼしている
- ✓ 頻繁に瞬きをする
- ✓ 眼の周りの脱毛
- ✓ 物にぶつかる
- ✓ まぶたが腫れている
- ✓ 眼が乾いている

眼の症状は、飼い主様がよ〜く見ていないと

見逃してしまうことが多いです。



代表的な眼の病気



緑内障

眼球内部の圧力（眼圧）が上昇。
視神経と網膜に障害が発生し結果、
一時的または**永久的な視覚障害**を起こす。
犬では急激に症状が進行し
48時間内に失明する場合も…
完治しない病なので、治療の目的は
痛みをとり、視力を長く保つこと。



結膜炎

外界と接する為、異物が入り
刺激を受けやすく**炎症を起こしやすい**。
細菌・アレルギー・睫毛・ドライアイ
など原因は様々…
原因を**取り除く**ことが大切。
そして目や目の周りを
眼の洗浄液で清潔に保つこと!!



白内障

多くが老化による水晶体が混濁すること。
白内障は失明するが
似た病気で加齢に伴い発症する**核硬化症**は
視力を失うことはない。
視覚障害や失明した場合は、**手術が必要**。
人工水晶体を挿入することで
近くも見え自由に行動ができる。



視覚は生活する上でかなり重要な役割をしていて、
一度その機能が失われると回復が難しいと言われています。

眼は**一生付き合う器官**です!!

病院で簡単な眼科健診をしてみませんか？

